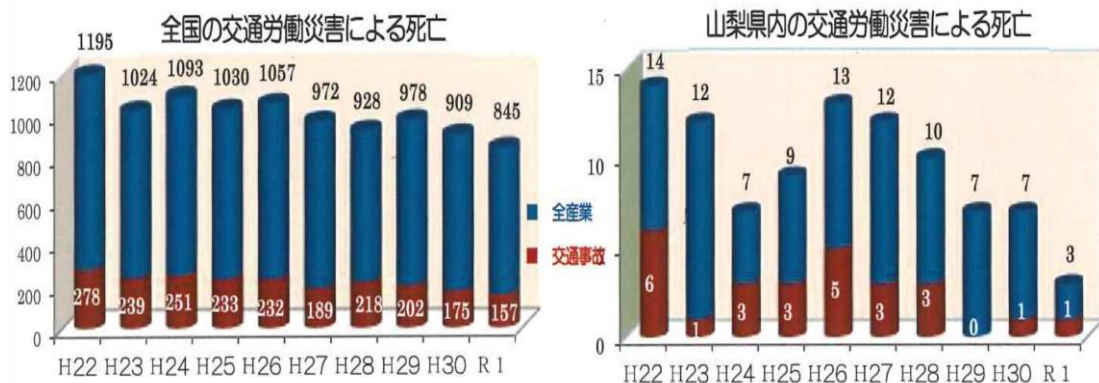


# 交通労働災害を防止しましょう

全国の交通労働災害による死亡者は全産業の2割を占め、毎年150人を超える方が業務中に交通事故で亡くなっており、休業4日以上の死傷者数は8,000人前後で推移しています。

山梨県内の交通労働災害による死亡者は、過去10年間でみると、全死亡者94人中、26人となっており、墜落・転落災害による死亡者数をも上回って最も多く、全死亡災害の約3割を占めています。業種別にみると運輸交通業が6人、運輸業以外の業種が20人となっています。また、休業4日以上の死傷者数は、40~50人前後で推移しています。



# 依田林業新聞

発行所

(有) 依田林業  
塩山事務所  
総務部

## コロナ「新しい生活様式」

まだまだ新型コロナウイルス対策に関する話題がある中、一人一人の意識が高まっている反面、慣れが出てくることから、第二波に対する予防と対策をしっかりと行わないといけません。

日常を見直し、山に持ち込まない努力をしていきましょう。日常での生活様式をご紹介します。

<p><b>買い物</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 通販も利用</li> <li><input type="checkbox"/> 1人または少人数ですいた時間に</li> <li><input type="checkbox"/> 電子決済の利用</li> <li><input type="checkbox"/> 計画をたてて素早く済ませ</li> <li><input type="checkbox"/> サンプルなど展示品への接触は控えめに</li> <li><input type="checkbox"/> レジに並ぶときは、前後にスペース</li> </ul>	<p><b>公共交通機関の利用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 会話は控えめに</li> <li><input type="checkbox"/> 混んでいる時間帯は避けて</li> <li><input type="checkbox"/> 徒歩や自転車利用も併用する</li> </ul>
<p><b>娯楽、スポーツ等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 公園はすいた時間、場所を選ぶ</li> <li><input type="checkbox"/> 筋トレやヨガは自宅で動画を活用</li> <li><input type="checkbox"/> ジョギングは少人数で</li> <li><input type="checkbox"/> すれ違うときは距離をとるマナー</li> <li><input type="checkbox"/> 予約制を利用してゆったりと</li> <li><input type="checkbox"/> 狭い部屋での長居は無用</li> <li><input type="checkbox"/> 歌や応援は、十分な距離かオンライン</li> </ul>	<p><b>食事</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 持ち帰りや出前、デリバリーも</li> <li><input type="checkbox"/> 屋外空間で気持ちよく</li> <li><input type="checkbox"/> 大皿は避けて、料理は個々に</li> <li><input type="checkbox"/> 対面ではなく横並びで座ろう</li> <li><input type="checkbox"/> 料理に集中、おしゃべりは控えめに</li> <li><input type="checkbox"/> お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて</li> </ul>
	<p><b>冠婚葬祭などの敏旅行事</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 多人数での会食は避けて</li> <li><input type="checkbox"/> 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない</li> </ul>

前向きになれる一言  
最大の不運の中に、幸せが生まれる最高のチャンスがある

### 色彩で安全カパッ

人間は、外部情報の80%以上を視覚で認識していると言われます。また、対象の認識は「色彩・形・質感」の順で行われるとも言われ、色彩は危険を回避するために最も直感的に判断できる情報です。作業者がお互いにどこにいるのか素早く認識し、安全に仕事をするためには、色彩を考慮して道具(機械)や衣類を選択することも大事です。では、「目立つ」色彩とはどんなものなのか。一言で言えば、「周囲に存在しない色」。一般的には、赤色・黄色が派手な色と位置づけられていますが、日本の広葉樹木を想像してみると、赤・黄色は広葉した葉で埋もれてしまい、目立たなくなりませす。作業服の色彩も、周囲の環境の変化に合わせて変化が必要で、蛍光色の活用や、無彩色(白・灰色)の活用、反射素材の活用などを組み合わせ、季節と共にコーディネートしてみたいかがででしょうか。